梅花幼稚園

令和5（2023）年度　学校自己点検・自己評価

『学校評価に係わる学校教育法施行規則等の一部を改正する省令』が平成19年10月30日に公布されたことに伴い、学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることとされています。また、その実施及び公表等について定められています。
本園の教育方針、現状や今後の取り組むべき課題を《 自己点検・自己評価公表シート 》としてまとめ、ホームページにて公表いたします。
本園の現状をご理解いただきたく参考になれば幸いです。なお、本園はこの自己点検・自己評価を基に園を挙げて改善・改革に取り組み、より良い教育活動を行うように努めております。

自己点検・自己評価公表シート

作成　梅花幼稚園

1、本園の教育目標

　幼児の主体的な活動としての遊びを充分に確保し、遊びを通しての周りの世界に興味をもち、探求し思考する過程を大切にした教育を目指している。
その手段として、身近な自然を保育の題材に取り入れ、表現保育を中心に個々の内面を育てる【心の教育】を主軸とする。
その中で、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、教師との信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と充分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼稚園の教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、家庭と幼稚園とが一丸となり、幼児期の子どもの成長を共に援助することに努める。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評　価　項　目	取　り　組　み　状　況
幼稚園の教育課程の達成・実施に関して、教職員の共通理解をはかると共に、日々の保育目標をしっかりもち、幼児の内面を育む努力をする。 ――A――	新幼稚園教育要領の理解を、全教職員で積極的に推進し、それを現実の保育に添わせるように、具体的な場面について話し合うと共に、個々の教員が日々の保育の記録を熱心にとり、本園全教職員が共通理解のもと、幼児教育に携わるよう努めている。
教育の質の向上のために、本園の教育方針にそった園内研修を充実させる。 ――B――	幼児の内面の発達を捉えるための研修を定期的に実施すると共に、本園の教育方針への理解を深め、日々の子どもの姿や、保育内容について話し合う機会を毎日もち、各教員が切磋琢磨して保育力の向上に努める。
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。 ――C――	保護者との懇談会を定期的に実施、行事等についての建設的な意見を積極的に取り入れ、見直すべきところはその改善に努めるようにする。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

個々の教員がそれぞれ目標をもち、幼児教育の重要性を認識しながら自己評価し、さらにそれが幼稚園の教育方針を明確にする方向へと繋がっていった。

評 価 項 目	評 価 結 果
――A――	教育要領の保育内容を充分理解し、それを実践にいかすことが出来るよう、教職員間の話し合いも充分行い、教職員の共通理解に努めた。
――B――	保育アドバイザー講師を招いての園内研究会は例年より少なかったが、園内教員が互いに保育を見あいながらの研修を実施し、各保育者の日々の保育の振り返り、子どもの内面の育ちを核とした保育批評、意見交換や、保育の方向性を検討できた。他園保育者対象に本園での実際の保育を公開する公開保育は今年度も中止となった。次年度は、他市他府県の園教員を交えての保育研究を通して各教員、保育視野を拡げ、保育向上に努めたい。
――C――	新型コロナウイルスが5月に5類となったことに伴い、クラス懇談会を実施し、各クラスの子どもの様子や保育目標を保護者に伝えた。また、梅花高校子ども保育コースの生徒が遠足付き添いや、園行事の手伝い等を通して、園児と高校生との関わりが今年度はもつことができ多少の交流は叶えた。

5、今後取り組むべき課題

課　題	具 体 的 な 取 り 組 み 方 法
安全管理	地震、火災に対して敏速に避難できる様、年 2 回の避難訓練実施し、園児個人持ちの防災ずきんを使って迅速に避難できるよう、全教員、全園児が安全管理への意識を高める。又、登降園時の開放的な時間帯の園児の安全確保について全教員が意識強化することや、園児の置き去り防止対策にもより一層の注意を払いながら教員間の連携も密に行う。また保護者間での個人情報の流出を防ぐために、幼稚園からの緊急連絡は、一斉送信メールシステムを引き続き活用する。
特別支援教育	幼児に対応した個別の指導計画の作成を検討すると共に、医療・福祉の関係機関との連携を積極的にとり、支援教育に努めたい。又、臨床心理士と連携をとり、より手厚いケアが出来るよう集団における個別の対応に一層充実をはかりたい。
幼稚園に対する保護者の満足度の把握	キリスト教の健学の精神に則った、私学の独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握

	すると共に、次年度は懇談会や参観日を通して、本園の教育方針への保護者理解が得られるよう努めていきたい。 又、近年増加している就労保護者のための支援も考慮し預かり保育の充実に努める。 未就園児教室の充実をはかり保護者の次年度への入園意識が高められるよう引き続き、幼稚園との連携をもしっかりととっていきたい。

6、学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

7、財務状況

学園財務全般について、公認会計士監査により適正に運営されていると認められる。

評価委員会名簿

森　和査

溝口　摩耶

辻　貴美恵

池尻　有香

妹尾　章子

東谷　牧子

以上6名，

2023（令和5）年度

梅花幼稚園父母の会役員

上記評価委員６名は、令和5年度父母の会役員で

あることを証明します。